

# 平成29年度 学校評価書

愛南町立御荘中学校



# 愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その1

平成29年度年度末(12月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

△参考 □評価材料等(学校評価アンケート以外)

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値(期待される姿)	評定(比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート						4・3の割合					
						4	3	2	1	?	%	0	50	90			
I 心の教育の充実	①	人権尊重	心の通い合う人間尊重教育を推進し、いじめや差別のない学校づくりがなされている。	前期 A	◇生徒・保護者ともに8割以上が概ね満足という結果が得られており、目標を達成している。しかし、生徒の5%、保護者の12%がそう思わないという状況があるため、全員が幸福感や満足感を得られる人権教育を目指していかなければならない。	生徒2-3	66	28	5	0	94						
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が概ね満足	年度末 A	◆学級や学校の様子から、おかしいと思うことに気付き、不合理を見過ぎさない人権感覚を「いじめ対策委員会」から広げていく。各家庭に対しては「人権だより」を通じて積極的な情報発信を行う。来年度は、人権・同和教育懇談会(特に講演会)への保護者の参加を今年より増やす。	保護者2-2	17	46	10	2	25	84					
						△教員3-2	54	46	0	0	100						
						□生徒の日常生活の状況 □学校生活アンケートの結果											
	②	心豊かな生徒の育成	道徳の時間の充実が図られ、優しい心が育てられている。	前期 A	◇教員・生徒ともに肯定率が8割を超えており「A」と判定した。しかし、依然として教員・生徒の回答に「2」があることが気になる。アンケートの実施時期が11月末の期末テスト期間中で、12月に入ってから校区别人権・同和教育懇談会に向けて集中的に道徳の授業を行ったので、時期が前後していれば多少数値が上がったかもしれない。	教員6-1	17	79	4	0	96						
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	年度末 A	◆道徳の時間に考え話し合ったことが、実際の生活に生かされているか…と問うと、「No」という答えが返ってくる生徒もいる。引き続き、指導者が生徒の実態を把握し、それらに応じた資料の選択・活用に根気強く努めていく必要がある。道徳の教科化に向けて学級担任だけでなく、全教員が協力して取り組まなければならない課題である。	生徒2-5	59	34	7	0	93						
					□生徒の日常の言動や姿容 □授業アンケート結果												
③	気持ちのよい挨拶	時と場に応じた、気持ちのよい挨拶ができる生徒が育っている。	前期 A	◇全ての対象の肯定的回答が80%割を超えており「A」と判定した。しかし、依然として「1」「2」の回答が、教員は13%、保護者は20%となっており、十分とは言えない状態である。今後も継続した呼び掛けと具体的な方向付けが必要である。	教員3-1	0	88	13	0	88							
		【目標値】 教職員・生徒・保護者・地域の8割以上が肯定	年度末 A	◆日常生活の基盤である挨拶の重要性については、全校生徒がきちんと認識しているが、実際には年間を通して常にも実践するとなると、持続的な実践ができにくい。生徒会活動や部活動等、授業外での指導や呼び掛けが効果的と思われる。特に、生徒会活動での取組を更に強化し、いつでも誰とでもさわやかな挨拶ができる状況を目指していきたい。	生徒1-5	60	34	5	1	94							
					保護者1-2	28	51	18	2	80							
					地域1-1	12	70	6	0	93							
					□生徒の日常の様子 □生徒会あいさつ運動の状況												

委員所見

◎いじめが心配される事例については、客観性に基づく対応をしておく必要がある。また、悪ふざけについても、昔とは違う捉え方で考えなければならないことも否めず、学校も苦労はあるが、悪ふざけがエスカレートしないよう気を付けておく。  
◎不登校生徒の関わりについては、数は極めて少ないが温かく寄り添ってやってほしい。  
◎登下校時の挨拶は、中学生については女子がよくしてくれる。(高校生は圧倒的に男子がよい。)挨拶一つにしても、ちょっとしたきっかけでできるようになることがある。

学校の対応

◎重点目標 I に関する評価は、中間期・年度末ともに高評価を得られた。反面、2もしくは1の否定的回答が表れていることも否めない。少数回答であっても、正確な状況・実態把握に継続的に努め、肯定的回答への傾きを大きくしていく。  
◎挨拶の出来・不出来についても、中学生には「きっかけ」が大切であるという示唆をいただいた。生徒会を中心とした「あいさつ運動」や礼儀・マナーの向上に関する指導を基盤として、個々の生徒への「きっかけづくり」を工夫して取り組んでいく。



# 愛南町立御莊中学校 学校評価公開シート その2

平成29年度年度末(12月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート						%	4・3の割合				
							4	3	2	1	?		0	50	90		
II 確かな学力の定着と向上	④	明確なねらい・対話的・主体的学び	ねらいを明確にした分かる授業を常に目指し、対話ある学びを意識したアクティブラーニングの実践に取り組んでいる。	前期 A	◇教員、生徒とも概ね肯定的な回答である。「ねらいの明示」については、実践ができてはいるが、「分かる授業」「対話のある学び」については、決まった基準自体が明確ではないので、教員は「B」の回答が多くなったと考えられる。	教員2-2	32	68	0	0	100						
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	年度末 A	◆「対話のある学び」「アクティブラーニング」については、今後も教員間で情報交換を進め、切磋琢磨していくことが必要である。本校の規模では、音楽科、美術科、技術・家庭科を除き、複数の教員がいるので、その利点を活用していきたい。	生徒2-1	47	46	7	0	93						
						△保護2-1	21	53	8	1	74						
	⑤	きめ細かな指導	個に応じたきめ細かな指導に努め、生徒一人一人に「学びに向かう力」を育て、基礎的・基本的な事項の定着を図っている。	前期 B	◇評価指標の診断テストの結果を考察すると、2学期始めの診断テストで、1年生は町平均の98%、2年生は103%、3年生は100%という結果である。(1学期始めの診断テストと比べると、1年生が0ポイント、2年生が-1ポイント、3年生が+1ポイントとなっている。)学校規模を考えると、まずまずの結果である。	教員2-1	55	45	0	0	100						
			【目標値】 診断テストの結果が、全学年町平均以上	年度末 B	◆引き続き、日々の授業の充実を目指すことが大切である。また、少人数指導やティームティーチングの利点を活用することが必要である。補充学習については、休憩時間、放課後、長期休業等を利用して、今後も個に応じた指導に努めていきたい。												
	⑥	家庭学習習慣	家庭学習の習慣が身に付いている。	前期 C	◇教員、生徒、保護者とも向上が見られ、B判定とした。評価が高いのが生徒で、目標値の8割を超えている。学習時間調査からは、1年生が伸びたが、課題が残る生徒もいる。保護者の回答の伸びには、生徒の頑張りとともに、学力向上通信も効果的に働いたと見られる。質問に関しては、学習時間を確実に把握している「生徒」と「教員」のみの回答に絞るのがよいかもしれない。	教員2-3	4	65	30	0	70						
			【目標値】 生徒の8割が1日90分以上の家庭学習の実施	年度末 B	◆今後も学級での進路学習を充実させるとともに、全校での集会による啓発が大切である。今後も学力向上通信を定期的に発行して情報発信をしていく。保護者アンケートでは、純粋に家庭内の学習時間ととらえているかもしれない。次回からは、家庭学習には塾の時間や宿題の時間を含める旨の説明を加える工夫をしたい。	生徒1-2	38	45	14	3	83						
						△保護1-5	20	45	27	7	65						

委員所見

◎きめ細かな指導の基となるテスト結果の目標値が良好なことに対しては、評定がAとされてもよいであろう。また、直接の意見として「勉強を頑張りたい」と表現している生徒が多数見られ、向学心が育っていることも評価できる点である。  
◎家庭学習習慣については、評定Cの状況からBへの成長が見られている。家庭生活にまで学校が踏み込んだ指導をすることは大変だと思われるが、継続して頑張ってもらいたい。

学校の対応

◎本校における学校評価の一番の課題項目であった「家庭学習習慣の定着」について、一歩前進が見られたことは収穫である。評価者(教員・生徒・保護者)の肯定回答が増加したので、今後も家庭への啓発活動を含めて継続的な家庭学習の充実を工夫していく。  
◎評価項目⑤については、中間期と同じく自己評価と評価結果の差異が埋まっていないため、教員の肯定率100%が、目標値に顕著に反映されるように努力する。



# 愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その3

平成29年度年度末(12月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4・3の割合												
							4	3	2	1	?	%	0	50	90				
Ⅲ 健やかな体の育成	⑦	基本的な生活習慣の定着	生徒自身による「早寝・早起き・朝ごはん」等、基本的な生活習慣が定着している。	前期 B	◇保護者の評価が低いため、評定をBとした。実際に11時までに就寝している生徒は7割弱である。「ノーテレビ・ノーゲームの日」や「朝食の日」の実施を通して、親子でしっかり実施できている家庭は家族でのコミュニケーションも図られ、生徒の基本的な生活習慣がしっかり定着してきているようである。	教員3-3	8	79	13	0		88							
			【目標値】 教員・生徒・保護者の8割以上が肯定 毎日夜11時には就寝	年度末 B	◆継続して「ノーテレビ・ノーゲームの日」や「朝食の日」の結果や様子を通信で発信し、実施に消極的な生徒や家庭に対して、啓発していく。また、保健委員会の活動を通して、「早寝・早起き・朝ごはん」の重要性を呼び掛けていく。														
⑧	運動の生活化・体力の向上	授業や部活動等を通して、運動の生活化と体力向上が図られている。	前期 A	◇教職員、生徒、保護者とも目標値の8割を超えており、評定をAとした。継続して保健体育科の授業で、走ることで補強運動を行っている。部活動でも顧問とキャプテンが中心となってしっかりとした取組を行っている。天気のよい昼休みには多くの生徒がグラウンドで体を動かす姿は継続して見られる。しかし、運動に消極的な生徒が昨年と比べ若干増えている。	教員7-1	46	50	4	0		96								
		【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定	年度末 A	◆保健体育科の授業や部活動での取組を今後も継続していく。また、冬季休業中には「一日30分以上の運動をしようできれば有酸素運動を」という課題を出すなど、長期休業中にも体力向上を図るよう呼び掛ける。体力テストで明らかになった握力と柔軟性の課題については、体育科の授業の補強運動の種類を改善したため今後も継続していく。	生徒1-4	55	28	13	4		83								
⑨	性教育・食育の充実	家庭や関係機関との連携を密にして、性に関する指導や食に関する指導の充実に努めている。	前期 A	◇教員・保護者とも目標値の8割以上を超えているため評定をAとした。朝食の日の効果として、9割の生徒が自分、または親と一緒に作るようになった。また、家族の分まで作る生徒や休日に自分で作る生徒も少しずつ増えてきた。栄養面も考慮する生徒も増えた。性に関する指導は、保健体育ではできたが、学級活動では計画的にできなかった。	教員7-4	25	67	8	0		92								
		【目標値】 保護者・教職員の8割以上が肯定	年度末 A	◆今後も朝食の日を継続し、朝食の重要性を感じとらせるとともに、食に興味・関心を持つ生徒を育成していく。また、会食の形式を工夫し、楽しくおいしく食べられるように考慮したい。実施回数等は、保護者の負担を考えると、今後の課題である。性に関する指導については、年間指導計画に基づいて計画的な指導を実践していく。	保護者2-4	24	56	5	1	14	93								

委員所見

- ◎外部指導者を含め、部活動運営の在り方についてはこれからの動向に注目していきたい。部活動については週2日の休みを設けることには賛成したい。
- ◎「朝食の日」の取組は、とても評価できる。子どもたちの将来に向けての取組であることを自負して、今後も継続して行うべきである。
- ◎部活動の朝練後の摂食については、保護者の意見も聞きながら検討するとよい。

学校の対応

- ◎B評価である「基本的な生活習慣の定着」については、否定的回答が依然として高い傾向が続いている。学校では啓発や調査によって指導を継続していくしかないと思われるため、あらゆる機会を通じて保護者への情報発信を行いながら、更なる協力体制を確立していく。
- ◎本校の特色ある取組の一つでもある「朝食の日」は、評価委員会の意見を尊重して今後も工夫・改善しながら継続的に実施する。
- ◎部活動に関する今後の動向は、外部にも積極的に発信していく。



# 愛南町立御庄中学校 学校評価公開シート その4

平成29年度年度末(12月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合					
							0	50	90									
IV 安心・安全な学校づくり	⑩	安全・安心な学校づくり	防災安全教育の充実を図り、生徒の命を守るためのあらゆる手立てを講じている。	前期 A	◇校内でのショート避難訓練、文化祭での防災小説コンテストや非常持出袋の展示、非常食試食会、平城五常会合同避難訓練など、あらゆる手立てを講じて防災教育の充実を図っている。その結果、生徒・保護者・教職員の肯定率が90%を超えている。特に生徒に関しては、100%の肯定率で、充実した取組がなされた結果であると考え。	教員7-3	42	54	4	0		96						
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定	年度末 A	◆昨年度に引き続き、地域合同避難訓練の実施ができた。このような地域とともに考える防災教育をこれからも継続していきたい。また、今年度からの新しい試みとして、慶應義塾大学准教授大木聖子先生から提案いただいた、防災小説コンテストを実施した。内容に工夫を加えながら、この取組も継続していく。		生徒2-6	90	10	0	0		100					
						保護2-3	52	39	3	1	6	91						
													<input type="checkbox"/> 毎月の避難訓練の実施 <input type="checkbox"/> 防災教育講演会の実施 <input type="checkbox"/> 生徒・保護者・教職員の防災意識					
⑪	楽しい学校づくり	生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、心の居場所づくりに努めている。	前期 A	◇生徒、保護者の肯定率がすべて9割以上と高く、生徒の安心した学校生活や心の居場所づくりに努めている様子がよく理解されている。ただし、生徒の6%、保護者の5%の回答について、しっかり確認し、今後も生徒一人一人を大切にすることの対応に努める必要がある。また、昨年の学年末評価は教員が100%であったが、今年度は8%低下となった。登校指導や下校指導、休み時間の巡視などでの緊張感の低下が原因と考えられる。	△教員3-4	38	54	8	0		92							
		【目標値】 8割以上の生徒・保護者が、学校へ楽しく通っている、と答える	年度末 A	◆肯定率が高いが、欠席日数が30日近くになっている生徒がいる。また、人間関係に問題を抱えている生徒もいる。今後とも、学校、学年部のきめ細かなフォロー体制を継続していく必要がある。チームワークを柱として、家庭との連携を更に深めながら、生徒一人一人に丁寧に関わっていく。バスの登下校指導や一般の登下校指導を充実させる。	生徒1-1	70	24	5	1		94							
						保護1-1	48	46	4	1	1	95						
													<input type="checkbox"/> 生徒の学校生活の状況 <input type="checkbox"/> 保護者からの情報					
⑫	安全確保の主体的行動	生徒自身が安全確保のために主体的に行動する態度が身に付いている。	前期 A	◇教員、保護者、地域すべてが8割以上の高い肯定率となっており、生徒は安全確保のために主体的に行動できていると考えている。交通安全教室や防災学習を地道に積み重ねた結果だと考えられる。	教員7-2	38	46	17	0		83							
		【目標値】 教員・保護者・地域の8割以上が肯定 交通事故0	年度末 A	◆防災学習を通して、地震や津波に関する生徒の知識や意識が高くなっていると評価できる。更に避難訓練の仕方を工夫したり、交通安全に関する意識を高める必要がある。登下校の様子を見ていると自転車の乗り方など身近な安全確保については、まだまだ意識が低い。登下校の指導等で、安全面について指導を強化していく必要がある。	保護者3-1	26	57	4	1	13	94							
						地域1-3	18	68	0	0	15	85						
													<input type="checkbox"/> 交通安全教室(1年)の実施 <input type="checkbox"/> 津波想定避難訓練の実施 (第二次避難場所への全校避難実施)					

委員所見

◎生徒指導に関することは、問題を抱える生徒たちに寄り添っていくしかない。温かいつながりを重視して関わってやってほしい。  
 ◎地域との合同避難訓練は意義深く、住民の意識も高まっている。ただし、訓練や事後活動の内容については、工夫と検討をしていくとよい。また、一地域だけではなく、校区内の他地域との連動についても考えた訓練ができるとよい。

学校の対応

◎本校における、安全教育に関する評価は高い傾向が続いている。安全に関する具体的な活動が学校内外に浸透している結果と捉えられる。本校教育の指導の柱とも言える領域でもあるので、安全教育の充実を自負できる教育環境を更に強化する。  
 ◎一人一人に寄り添う指導については、生徒の心のサインを見逃さないように努め、学校自体が支持的風土に満ちたぬくもりのある環境であるように、生徒指導体制を充実させる。



# 愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その5

平成29年度年度末(12月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	?	%	4・3の割合					
													0	50	90			
V 教職員の 資質・能力の 向上	⑬	教職員の自己研さん	質の高い現職教育研究を重ねるとともに、アクティブラーニングやICT教育の充実に積極的にチャレンジしている。	前期 A	◇2学期は、センター研修やその他の出張等が多数あったため、肯定的な回答となったものと思われる。特に郡教研発表大会に向けて、校内研修をはじめ、授業改善に向けた教材研究などの自己研修に励んだ結果であると考え。仕事量の違いはあるかもしれないものの、それぞれの立場で自己研さんができたという結果であろう。	教員1-2	29	67	4	0		96						
			【目標値】 9割以上の教職員が、自己研さんに励んでいる、と答える	年度末 A	◆郡教研発表大会という大きな目標が終了したことによって、学校全体での取組よりも、自己研さんをさらに充実させる必要がある。特に、道徳の教科化や新学習指導要領への移行など、教育の大きな変化に対応できるように積極的な研修への参加が求められる。	□教職員の意識調査												
	⑭	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実を図るとともに、その手法を全ての教育活動に生かすよう努めている。	前期 A	◇特別支援教育における支援の在り方についての職員研修を実施し、支援を要する生徒への理解と対応について共通理解を図った。また、関係諸機関との連携を図りながら、支援の方向性を探った。学年会や職員会などで生徒の情報交換を密に行いながら支援に当たっている。	教員5-1 教員5-2	42 33	58 63	0 4	0 0		100 96						
			【目標値】 教員の8割以上が肯定 特別支援教育研修を年3回以上実施(学期に1回以上)	年度末 A	◆個別の指導計画の振り返りを行い、個々の生徒の課題を見直す。また、合理的配慮の視点からの実践として、誰にでも分かりやすい授業づくりを目指すとともに、学習支援員が学習内容の理解が困難な生徒に個々に支援を行った。今後も個に応じた支援の在り方を具体化していく。	□特別支援教育研修の実施回数 年3回(学期1回)以上 □特別支援教育に関わる情報の共有状況												
	⑮	開かれた学校づくり	保護者や地域の意見・願いを幅広く聞くとともに、学校の取組や生徒の様子を積極的に公開するなどして、家庭・地域と連携した開かれた学校づくりに努めている。	前期 A	◇回答の8割以上が肯定的であること、4月から12月末までのホームページの更新回数は258回となっていることから、評定をAとした。ほぼ毎日ホームページを更新し、行事だけではなく授業時間などの各学年の取組をはじめ、多くの教育活動の様子を、その都度配信することができた。また、学校長だよりやその他の各種通信により、幅広く情報発信することができた。	教員8-2 保護3-3 地域2-4	71 35 35	29 53 47	0 5 0	0 1 0		100 87 82						
			【目標値】 教職員・保護者・地域の8割以上が肯定	年度末 A	◆現在行っている活動をそのまま継続し、ホームページや様々な通信を通して、学校の教育活動を幅広く発信していく。また、ホームページには、行事やその取組の様子をできるだけ早く、その日のうちに掲載できるように努める。ホームページに掲載している月予定の更新については、全教職員で確認後、できるだけ早く発信できるようにする。	□ホームページの更新回数 年200回以上 □学校行事等の公開 (参観日、懇談会、説明会など)												

委員所見

◎ホームページの閲覧数に動きはあるか。  
◎各種たよりが学校から出されているが、学校長だよりが毎日発行されていることには大変な値打ちがある。発信内容の浸透を図る工夫として、分量や文字に関する工夫を取り入れてみてはどうか。  
◎生徒の活動や活躍の様子は、今後も積極的に紹介してほしい。

学校の対応

◎ホームページに関しては、日々の閲覧数に一喜一憂するのではなく、こまめに情報を更新、発信していく現状を継続していく。  
◎各種たよりの発信については、各担当者が内容の分量や書き方等について工夫・改善しながら、より充実した情報発信の在り方を探る。

